

米原子力空母の横須賀配備を阻止する三浦半島連絡会

阻止連ニュース NO. 967

2011年7月26日
TEL・FAX 046-856-8714
携帯090-1995-7599

新しい県原水協・笠木隆事務局長を先頭に19名が参加、80筆の署名

1日も早い危険な「原子力空母GW」の撤退を・25日行動

「三浦半島断層群での地震発生確率上昇」「第2のフクシマに」と緊迫したなかで



(笠木事務局長の訴えに高校生が署名)



11日に文科省の地震調査委員会(阿部勝征会長)が「三浦半島断層群で地震の確率上昇」を発表して以降、連日、三浦半島での大地震発生時に関するマスコミメディアの報道が相次いでいる。

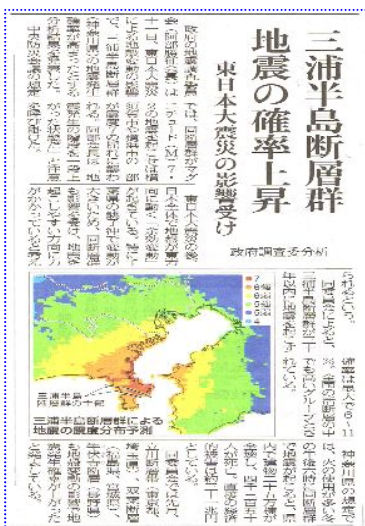
昨夕、駅売りの「タ刊フジ」も1面に三浦半島が危ない」と大きな見出しをつけて、2面で詳しく解説していた。また、既に発売されている「女性セブン」も三浦半島断層群で首都はどうなる?と特集記事を取り上げている。このように「三浦半島、緊迫の情勢」のなか、昨日、定例の「25日行動」が横須賀中央Yデッキで実施された。

26年間、事務局長を担ってきた永沢丈夫さんから今年7月にバトンタッチされた笠木隆新事務局長の下での最初の「25日行動」でもあった。新婦人や平和委員会などから19名が参加、宣伝と併せて80筆以上の核廃絶署名が2時間の間に集まった。

「空母は日本を守っているのでは」という市民からの質問にも事務局長自ら丁寧に対話、答えている姿が印象的だった



昨夕のタ刊フジ



(FRIDAY8月5号)

(東京新聞7月12日)

